

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業422社を対象に実施し、324社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成22年1月～3月の実績、平成22年4月～6月の見込み、平成22年7月～9月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成22年3月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199	151	75.9%
非 製 造 業	223	173	77.6%
計	422	324	76.8%

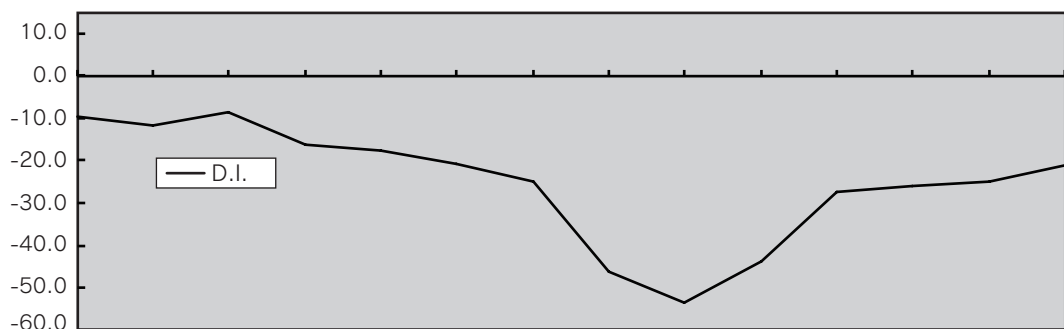
日銀が5月17日に公表した、北陸の金融経済月報（2010年5月）によると、「北陸の景気は、依然として厳しい状況にあるが、穏やかに持ち直している。最終需要をみると、公共投資は減少しているものの、輸出は中国等アジア向けを中心に増加が続いている。個人消費は、全体としては弱い状況にあるが、一部には政策効果から持ち直しの動きが続いている。また、設備投資、住宅投資は下げ止まりつつある。この間、企業収益は低水準ながら改善の方向にある。また、雇用・所得は厳しい状況が続いているが、労働需給は穏やかに持ち直す動きがみられている。先行きは、海外経済の改善や経済対策の効果を受けて、全体として持ち直しの動きが続くとみられる。」としている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年				21 年				22 年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良 い	13.4	13.6	14.6	12.6	12.9	8.4	9.4	4.4	3.4	3.6	7.9	11.0	8.5	7.0
普 通	63.5	61.1	62.3	58.4	56.6	62.2	56.3	44.7	39.8	49.0	56.4	52.0	57.9	64.9
悪 い	23.0	25.3	23.1	29.0	30.5	29.4	34.4	50.9	56.8	47.4	35.6	37.0	33.6	28.2
D . I .	-9.6	-11.8	-8.5	-16.4	-17.6	-21.0	-25.0	-46.5	-53.4	-43.9	-27.7	-26.0	-25.2	-21.2

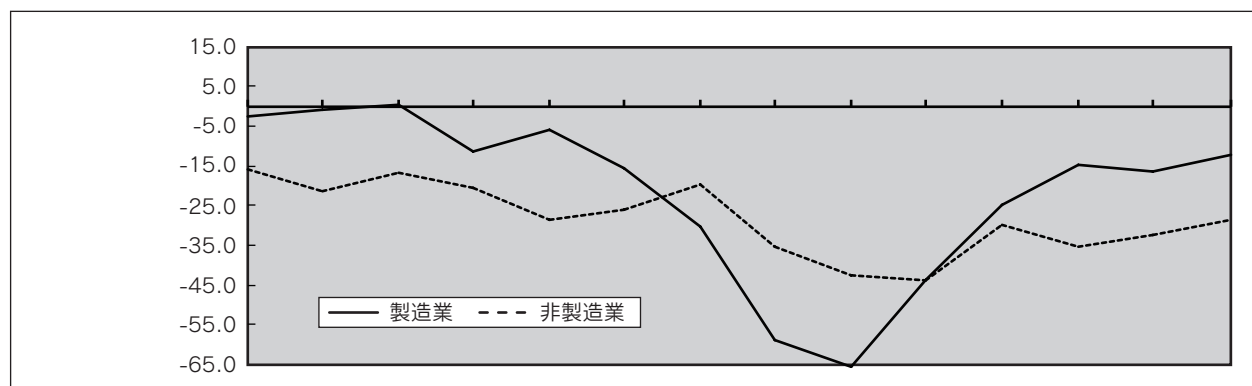


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

期別 種別		19年			20年			21年			22年				
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良	い	16.7	20.0	19.9	14.6	16.3	10.2	8.4	2.6	0.7	5.7	10.0	20.5	13.7	10.3
普	通	64.0	58.9	60.8	59.1	61.2	64.1	52.6	35.5	33.1	44.7	55.0	43.8	56.2	66.9
悪	い	19.4	21.1	19.4	26.3	22.5	25.7	39.0	61.9	66.2	49.6	35.0	35.6	30.1	22.8
D . I .		-2.7	-1.1	0.5	-11.7	-6.2	-15.6	-30.5	-59.4	-65.6	-44.0	-25.0	-15.1	-16.4	-12.4

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

期別 種別		19年			20年			21年			22年				
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
良	い	10.5	7.8	9.8	10.8	9.7	6.7	10.2	6.0	5.8	1.8	6.1	2.9	4.1	4.1
普	通	63.2	63.1	63.7	57.7	52.2	60.6	59.6	52.5	45.7	52.7	57.7	59.0	59.3	63.2
悪	い	26.3	29.1	26.5	31.4	38.2	32.8	30.1	41.5	48.6	45.6	36.2	38.2	36.6	32.7
D . I .		-15.8	-21.4	-16.7	-20.6	-28.5	-26.1	-19.9	-35.5	-42.8	-43.8	-30.1	-35.3	-32.6	-28.7



- (1) こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の22年1～3月期実績は▲26.0と前期比1.7ポイント改善した。先行きについて、22年4～6月期のD.I.は▲25.2となり、22年7～9月期予想は▲21.2と改善する予想となっている。D.I.は、21年4～6月期を最低ポイントとして、改善してきており、底は脱したとみられる。
- (2) 業況判断指数D.I.の22年1～3月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より9.9ポイント改善し、▲15.1となった。先行きの4～6月はやや悪化見込の回答となっているが、7～9月は再び改善予想をしている。非製造業については、今期は5.2ポイント悪化し、▲35.3となった。非製造業の先行きに対しては、徐々に改善する予想となっている。

II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
増加	28.5	26.0	31.5	30.1	26.5	26.0	18.5	11.8	12.7	10.0	14.5	28.0	24.9	21.4
横ばい	41.7	42.2	40.4	39.2	41.2	40.9	35.4	28.0	24.1	24.9	29.9	36.2	50.9	58.2
減少	29.8	31.8	28.2	30.7	31.6	33.1	46.1	60.2	63.2	65.0	55.6	35.8	24.2	20.5
D. I.	-1.2	-5.9	3.3	-0.5	-5.7	-7.1	-27.6	-48.4	-50.5	-55.0	-41.1	-7.9	0.6	0.9

売上高状況 (うち製造業のみ)

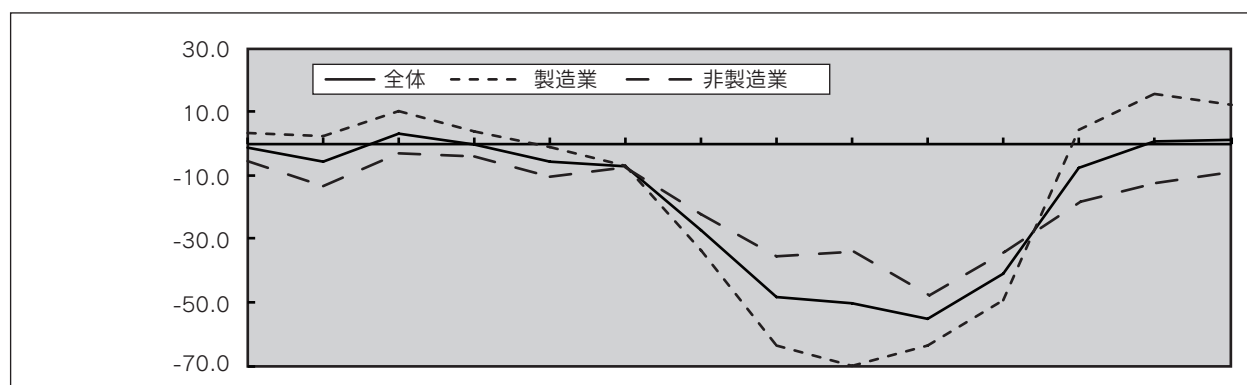
(%) 見込 予測

種別 \ 期別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
増加	31.6	31.0	36.5	34.0	30.6	28.6	17.1	7.8	7.4	7.8	13.4	35.6	37.0	28.8
横ばい	40.0	40.2	37.1	3.5	37.8	35.7	32.2	20.6	15.4	20.6	23.9	32.9	41.8	54.8
減少	28.5	28.8	26.3	30.4	31.7	35.7	50.7	71.6	77.2	71.6	62.7	31.5	21.2	16.4
D. I.	3.2	2.2	10.2	3.5	-1.1	-7.1	-33.6	-63.9	-69.8	-63.8	-49.3	4.1	15.8	12.3

売上高状況 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
増加	25.8	21.4	26.9	26.8	22.8	23.6	19.8	15.2	17.2	11.9	15.4	21.5	14.6	15.2
横ばい	43.2	43.9	43.3	42.3	44.4	45.6	38.3	34.2	31.6	28.6	35.2	39.0	58.7	61.0
減少	31.0	34.6	29.8	30.9	32.8	30.8	41.9	50.5	51.1	59.5	49.4	39.5	26.8	23.9
D. I.	-5.2	-13.2	-2.9	-4.1	-10.1	-7.1	-22.2	-35.3	-33.9	-47.6	-34.0	-18.0	-12.2	-8.7



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、前期より33.2ポイントと大幅改善し▲7.9となった。先行きについても、改善予想となっており、22年4~6月期は8.5ポイント改善。また、22年7~9月期は前期より8.8ポイント改善予測となっている。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けても、前期比製造業、非製造業とも改善した回答となった。製造業は53.4ポイント、非製造業は16.0ポイント改善した。また、先行きについても製造業、非製造業とも改善予想となっている。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

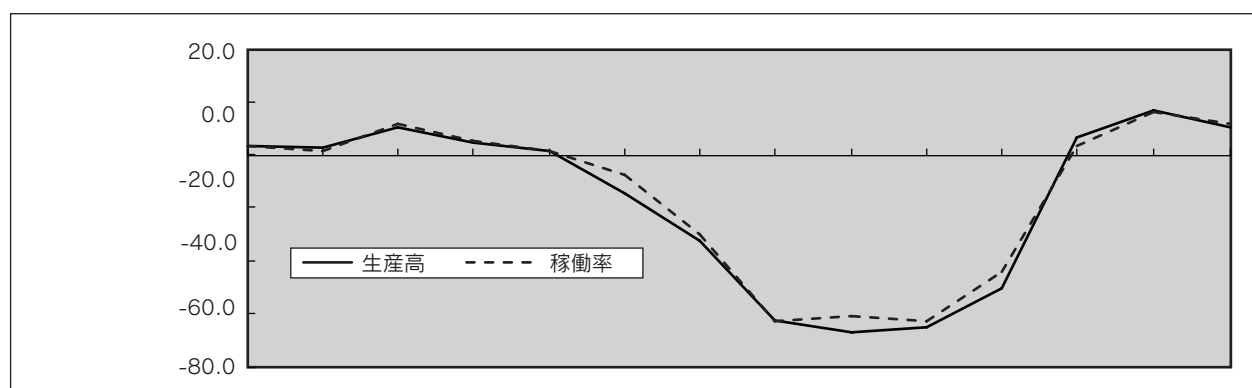
(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
20%以上増加	4.4	8.1	7.9	4.4	5.9	1.8	1.9	1.3	0.7	0.0	2.2	12.9	8.6	9.3
20%未満増加	26.4	21.4	27.5	28.8	24.1	21.2	14.6	5.9	5.2	7.1	9.5	24.3	30.7	19.3
横ばい状況	41.8	43.9	39.9	38.1	41.2	39.4	34.8	22.9	21.6	20.6	26.3	32.1	38.6	53.6
20%未満減少	24.2	23.1	21.3	25.6	26.5	30.3	35.4	33.3	32.7	36.2	38.0	22.1	17.1	14.3
20%以上減少	3.3	3.5	3.4	3.1	2.4	7.3	13.3	36.6	39.9	36.2	24.1	8.6	5.0	3.6
D . I .	3.3	2.9	10.7	4.4	1.2	-14.5	-32.3	-62.7	-66.7	-65.2	-50.4	6.4	17.1	10.7

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
上 昇	5.6	5.9	6.9	4.6	7.2	2.6	1.9	0.7	0.7	0.0	2.9	13.6	11.5	9.4
やや上昇	20.8	18.9	25.3	27.8	21.7	19.9	13.5	5.4	6.6	8.1	10.2	22.9	28.1	21.6
横 ば い	50.6	52.1	47.1	40.4	43.4	47.4	39.1	26.2	25.0	21.3	29.9	30.7	37.4	49.6
やや下降	20.8	18.3	17.8	23.8	25.3	24.4	30.1	30.2	22.4	33.1	38.0	22.9	15.1	15.1
下 降	2.2	4.7	2.9	3.3	2.4	5.8	15.4	37.6	45.4	37.5	19.0	10.0	7.9	4.3
D . I .	3.4	1.8	11.5	5.3	1.2	-7.7	-30.1	-61.7	-60.5	-62.5	-43.8	3.6	16.5	11.5



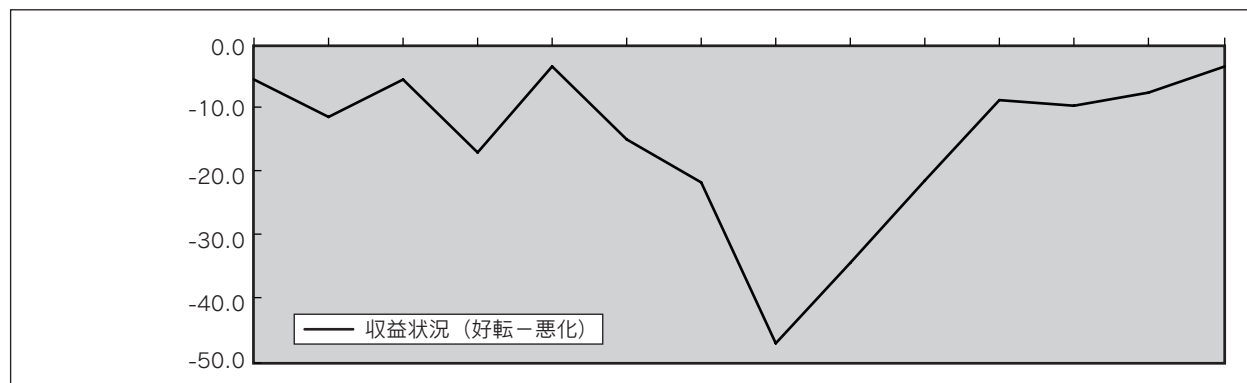
- 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.は、前期比56.8ポイント改善し6.4となった。指数はプラスポイントになった。先行きについても、改善予想であり、4～6月は17.1と10.7ポイント改善する予想となっている。
- 稼働率状況D.I.も、3.6と前期比47.4ポイント改善した。先行きについても、生産高同様に改善見込となっており、4～6月期は16.5としている。稼働率は21年7～9月期を底とし、ポイントは改善してきている。稼働率も、今回調査より指数はプラスポイントになっている。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

種別	19年			20年				21年				22年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
好転	16.6	12.4	18.5	16.1	20.1	12.7	12.7	5.6	11.1	13.5	17.1	19.0	15.0	12.5
横ばい	61.3	63.9	57.5	50.8	56.5	59.5	52.8	41.9	43.5	51.4	57.2	52.3	62.6	71.7
悪化	22.1	23.7	24.1	33.1	23.4	27.7	34.5	52.5	45.4	35.0	25.7	28.7	22.4	15.9
D.I.	-5.5	-11.3	-5.6	-16.9	-3.3	-15.0	-21.7	-46.9	-34.3	-21.5	-8.6	-9.7	-7.5	-3.4



好転理由

(%) 見込 予測

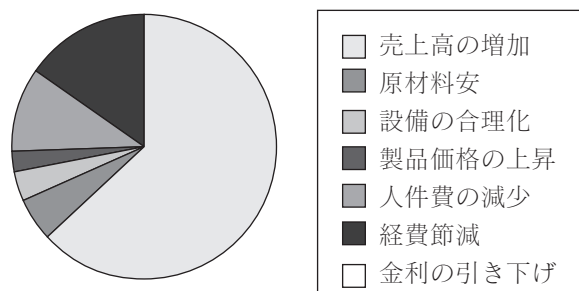
種別	19年			20年				21年				22年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
売上高の増加	61.4	66.2	64.4	58.9	57.0	65.1	64.3	52.5	49.2	63.9	54.2	63.3	61.3	57.4
原材料安	1.1	1.5	2.3	2.2	0.9	4.8	14.3	12.5	6.6	8.2	11.1	5.1	3.2	4.3
設備の合理化	4.5	3.1	2.3	2.2	1.9	0.0	1.8	5.0	6.6	1.6	2.8	3.8	4.8	4.3
製品価格の上昇	6.8	7.7	6.9	14.4	17.8	11.1	5.4	0.0	1.6	0.0	0.0	2.5	4.8	6.4
人件費の減少	3.4	3.1	6.9	5.6	6.5	3.2	1.8	12.5	18.0	11.5	12.5	10.1	9.7	14.9
経費節減	21.6	16.9	16.1	13.3	15.9	12.7	12.5	17.5	6.4	14.8	19.4	15.2	16.1	10.6
金利の引き下げ	1.1	1.5	1.1	3.3	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1

悪化理由

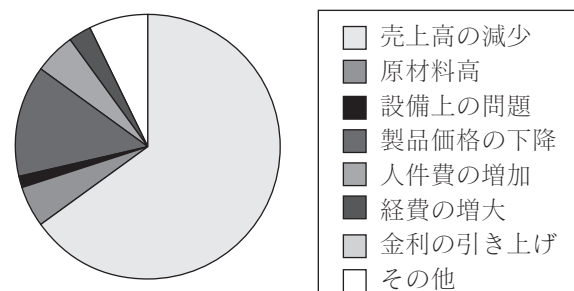
(%) 見込 予測

種別	19年			20年				21年				22年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
売上高の減少	47.2	17.6	48.0	53.0	46.2	43.3	60.6	68.6	64.9	62.7	68.1	65.2	60.3	58.7
原材料高	25.0	21.0	26.3	29.2	31.7	30.4	14.3	6.3	4.8	3.6	4.2	5.0	5.8	6.5
設備上の問題	1.4	2.1	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	1.0	1.2	1.7	1.4	1.7	0.0
製品価格の下降	6.9	11.9	5.3	4.8	4.8	8.2	11.4	12.5	18.3	16.6	14.3	13.5	15.7	17.4
経費の増大	10.4	10.5	11.8	5.4	9.0	9.4	6.9	5.1	5.3	7.7	5.0	5.0	5.0	6.5
人件費の増加	2.8	4.2	5.3	5.4	4.8	4.1	4.0	4.7	4.8	4.1	3.4	2.8	5.0	4.3
金利の引き上げ	2.8	0.0	0.0	0.6	1.4	0.6	0.0	0.4	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	3.5	2.8	2.0	1.8	2.1	2.3	2.9	1.6	0.5	3.6	3.4	7.1	6.6	6.5

好転理由



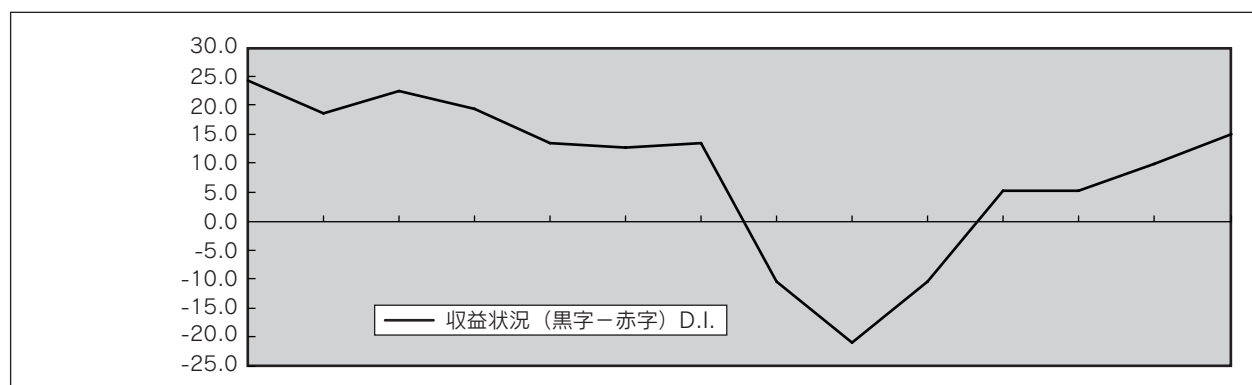
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、▲9.7と前期比1.1ポイント悪化となった。収益状況は21年1～3月期を底に改善していたが、今回調査ではやや悪化となった。先行きは、改善見込となっている。22年4～6月期▲7.5、7～9月期▲3.4と予想している。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」とするポイントが前期比9.1ポイント増加し、最も高いポイントであった。「原材料安」を理由とするポイントが前期比低下した。先行きについても、「売上高の増加」「経費節減」とする理由が高いポイントとなっている。
- (3) 収益が悪化した理由は、「売上高の減少」「製品価格の下降」が前期同様に高いポイントとなっている。「売上高の減少」を理由とするポイントは前期より減少しており、先行きについても減少していく予想となっている。「売上高状況」の指数も改善予想となっており、収益に反映している。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	19年			20年			21年				22年			見込	予測
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月		
黒字	43.0	38.3	41.9	39.1	34.7	34.3	36.6	25.0	19.0	23.5	27.0	28.5	27.3	28.8	
収支トントン	38.4	41.9	38.6	41.3	44.1	44.1	40.4	39.6	41.1	42.6	51.3	48.3	55.5	57.4	
償却後赤字	18.6	19.8	19.5	19.7	21.2	21.6	23.0	35.4	39.9	33.9	21.7	23.2	17.2	13.8	
D.I.	24.4	18.5	22.4	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-10.3	5.3	5.3	10.0	15.0	



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、前期と同じ、+5.3となった。前期より収益状況指数はプラスポイントとなっている。先行きについても、22年4～6月期は+10.0と改善予想となっている。収益状況においては、黒字と回答する企業の比率が増加している。21年4～6月期を底に、収益状況も改善している。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	2.8	4.4	1.6	1.7	2.7	3.3	1.5	1.5	2.2	3.5	3.1	1.1	2.3	3.5
適正	84.9	82.6	85.5	86.3	86.2	85.1	86.0	78.0	79.2	84.0	83.5	87.7	91.1	91.4
過剰	12.3	13.1	12.9	11.9	11.1	11.6	12.5	20.5	18.6	12.5	13.3	11.1	6.6	5.1
D . I .	-9.5	-8.7	-11.3	-10.2	-8.4	-8.3	-11.1	-19.0	-16.4	-9.0	-10.2	-10.0	-4.3	-1.6

製品在庫水準（うち製造業のみ）

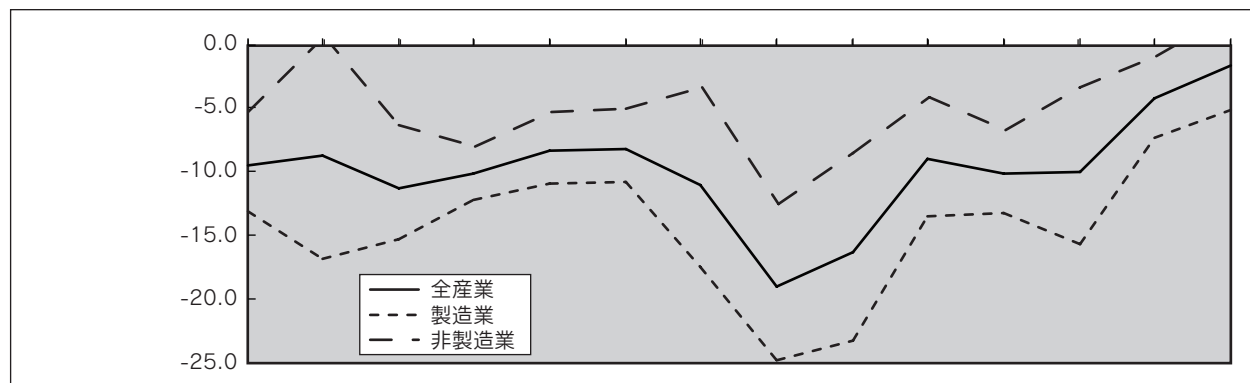
(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	2.3	2.3	1.1	1.3	1.2	2.6	1.4	0.7	2.1	4.5	3.7	0.0	0.7	2.2
適正	82.3	78.5	82.4	85.3	86.6	84.0	79.7	73.8	72.4	77.4	79.3	84.3	91.2	90.4
過剰	15.4	19.2	16.5	13.5	12.2	13.5	18.9	25.5	25.5	18.0	17.0	15.7	8.0	7.4
D . I .	-13.1	-16.9	-15.3	-12.2	-11.0	-10.9	-17.6	-24.8	-23.4	-13.5	-13.3	-15.7	-7.3	-5.1

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年			21 年			22 年				
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
不足	3.3	6.7	2.1	2.2	4.5	4.2	1.6	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	4.1	5.0
適正	88.0	87.2	89.4	87.6	85.8	86.7	93.5	82.8	86.8	91.1	88.3	91.7	90.9	92.6
過剰	8.7	6.0	8.5	10.2	9.7	9.2	4.9	14.8	10.9	6.5	9.2	5.8	5.0	2.5
D . I .	-5.3	0.7	-6.3	-8.0	-5.2	-5.0	-3.3	-12.5	-8.5	-4.1	-6.7	-3.3	-0.8	2.5



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足-過剰」D.I.は、22年1～3月期は▲10.0となり、前期比0.2ポイントの改善となっている。先行きについては、ポイントは上がっており、過剰感は低下する予想となっている。製造業、非製造業別では、製造業が今期も前期比過剰との回答が高かった。
- (2) 業種別では、高岡銅器、繊維、木材業、不動産業が過剰感の高いポイントとなった。木材業、不動産業は前期も高い過剰感であった。今期は、繊維業の指数が、前期比最も高い変化の14.4ポイント悪化し、過剰感が高くなっている。

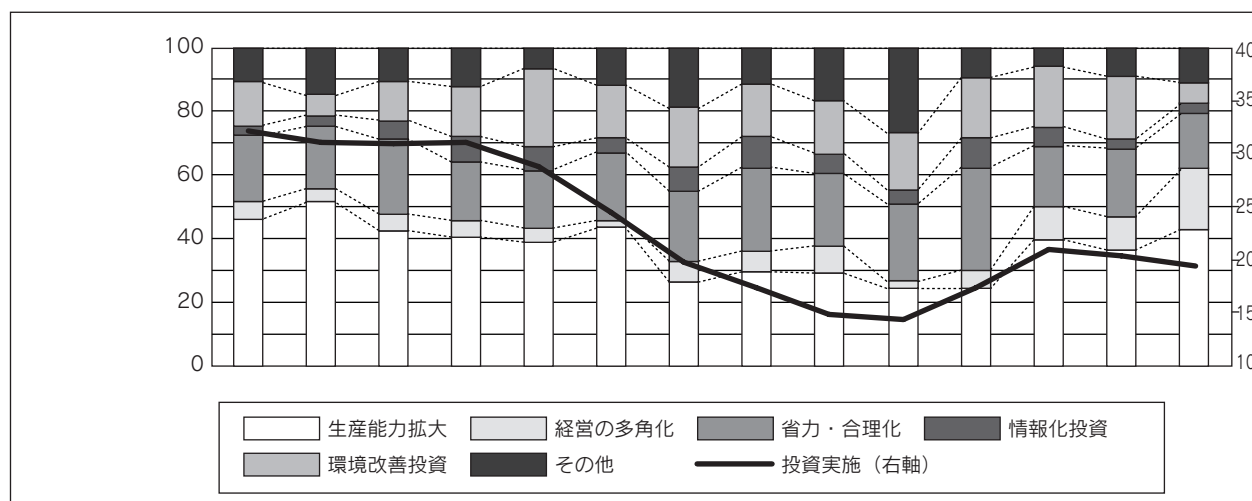
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	19年												20年			21年			22年		
	4～7～10～			1～4～7～10～			1～4～7～10～			1～4～7～											
	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月							
投資実施	32.2	31.4	30.9	31.1	28.8	24.4	19.8	17.3	14.8	14.4	17.4	21.0	20.4	19.4							
投資せず	67.8	68.6	69.1	68.8	71.2	75.6	80.2	82.7	85.2	85.6	82.6	79.0	79.6	80.6							

設備投資の目的（実施先について）

	19年												20年			21年			22年		
	4～7～10～			1～4～7～10～			1～4～7～10～			1～4～7～											
	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月							
生産能力拡大	46.2	51.6	42.6	40.4	38.7	43.5	26.6	29.5	29.2	24.4	24.5	39.7	36.4	42.9							
経営の多角化	5.4	4.1	4.9	5.3	4.7	2.4	6.3	6.6	8.3	2.2	5.7	10.3	10.6	19.0							
省力・合理化	20.8	19.7	23.8	18.4	17.9	21.2	21.9	26.2	22.9	24.4	32.1	19.1	21.2	17.5							
情報化投資	3.1	3.3	5.7	7.9	7.5	4.7	7.8	9.8	6.3	4.4	9.4	5.9	3.0	3.2							
環境改善投資	13.8	6.6	12.3	15.8	24.5	16.5	18.8	16.4	16.7	17.8	18.9	19.1	19.7	6.3							
その他	10.8	14.8	10.7	12.3	6.6	11.8	18.8	11.5	16.7	26.7	9.4	5.9	9.1	11.1							



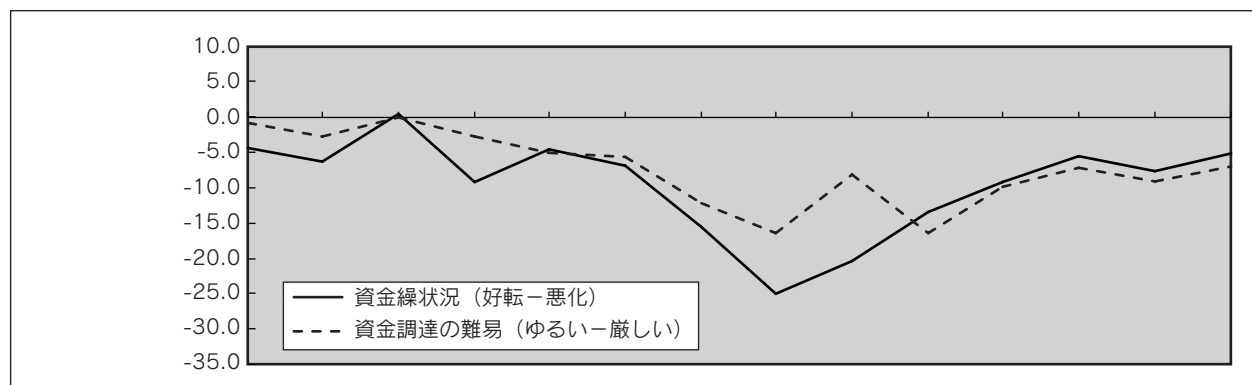
- (1) 22年1～3月に設備投資を実施した企業は全産業の21.5%と、前期比4.1ポイント増加した。投資実施企業は20%台となり、増加してきている。先行きについても、約20%の企業が実施を予定している。目的別では、生産能力の拡大が最も高く、次に省力合理化、環境改善投資が同ポイントとなっている。
- (2) 業種別では、今期は高岡銅器が50%と最も高く、医薬品製造、出版印刷紙加工が次に高くなった。前期に高かった電子部品製造のポイントはやや減少した。目的別では、生産販売能力拡大とするポイントが高く、経営の多角化とする回答もあがっている。先行きについても、出版印刷紙加工、医薬品製造の設備投資予想は高いポイントとなっている。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	19年			20年				21年				22年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
好転	6.8	5.9	10.4	7.4	8.5	6.0	4.4	5.0	6.2	7.7	5.9	9.0	8.7	8.4
変わらず	82.0	81.7	79.6	76.0	78.4	81.0	75.5	65.0	67.3	71.0	79.1	76.3	74.8	77.9
悪化	11.3	12.4	9.9	16.7	13.2	12.9	20.1	30.0	26.5	21.3	15.0	14.6	16.5	13.7
D.I.	-4.5	-6.4	0.5	-9.3	-4.7	-6.9	-15.7	-25.0	-20.4	-13.5	-9.2	-5.6	-7.8	-5.3



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

期別 種別	19年			20年				21年				22年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
ゆるい	11.6	10.6	10.4	12.2	7.9	7.5	5.9	4.4	5.9	5.1	7.3	9.7	9.8	9.5
厳しくない	76.1	76.0	79.3	72.8	79.0	79.3	75.9	74.9	79.9	73.3	75.4	73.3	71.3	74.0
厳しい	12.3	13.4	10.4	15.0	13.1	13.2	18.1	20.7	14.2	21.5	17.3	17.0	18.9	16.5
D.I.	-0.8	-2.8	0.0	-2.8	-5.2	-5.7	-12.2	-16.3	-8.3	-16.4	-10.0	-7.2	-9.1	-7.0

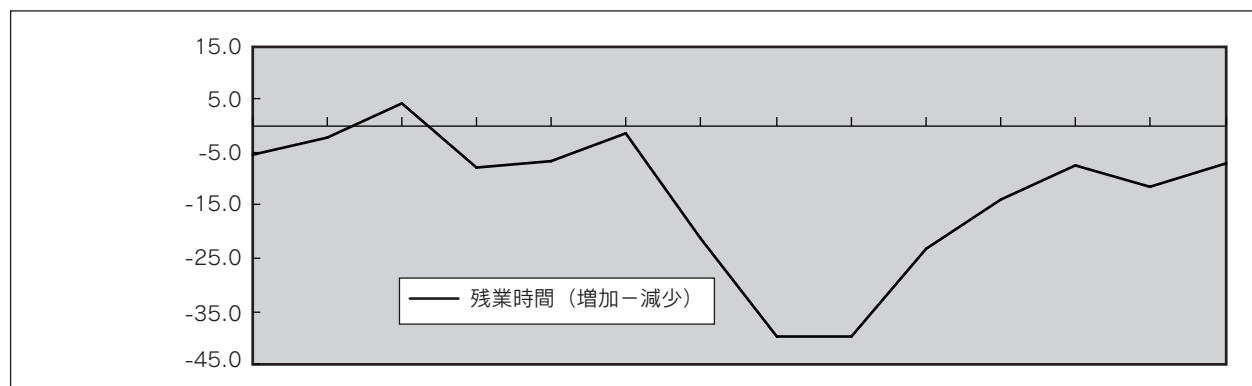
- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は、前期比3.6ポイント改善され▲5.6となった。先行きについては、▲7.8とやや悪化の見込となっている。資金繰りは、改善してきているがマイナスポイントであり、悪化するポイントが高い状況である。
- 資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」では、前期比2.8ポイント改善している。先行きについては、資金繰り状況と同じでやや悪化の予想となっている。また、資金繰りについては厳しい状況がうかがわれる。業種別では、医薬品製造、鋼材建材販売、機械工具販売がプラスポイントとなり、資金調達は安定しているとみられるが、不動産、繊維、土木業はマイナスポイントであり、厳しいとの回答が高い。

VIII. 労務事情

残業時間

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年				21 年				22 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
増加	14.0	15.1	18.7	14.3	12.4	17.6	10.0	6.5	4.3	11.3	12.1	15.4	10.2	8.3
横ばい	66.6	67.2	67.0	63.1	68.4	63.4	58.5	47.4	51.6	53.6	61.6	61.4	68.0	76.2
減少	19.5	17.7	14.4	22.5	19.2	19.0	31.6	46.1	44.1	35.1	26.3	23.2	21.8	15.6
D . I .	-5.5	-2.5	4.3	-8.2	-6.8	-1.4	-21.6	-39.6	-39.8	-23.7	-14.2	-7.8	-11.6	-7.3

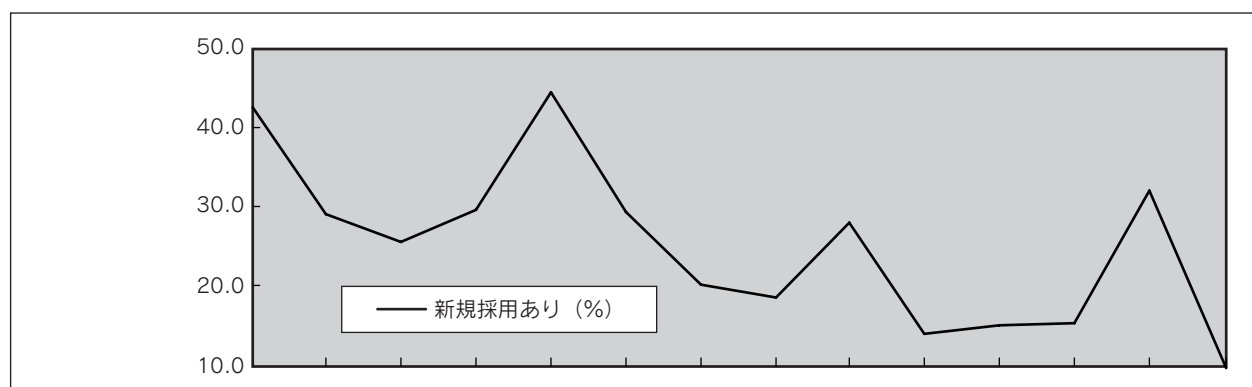


- (1) 残業時間D.I.は22年1～3月期▲7.8となり、前期比6.4ポイント低くなった。残業時間は21年4～6月期を減少のピークに、やや増加となっている。先行きについては、22年4～6月期は減少予想となっている。業種別では、出版印刷紙加工、電子部品製造、医薬品製造が増加の回答となった。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

(%) 見込 予測

期別 種別	19 年			20 年				21 年				22 年		
	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月
全産業	42.5	29.2	25.6	29.7	44.5	29.3	20.1	18.6	28.1	14.0	15.2	15.3	32.0	9.8
(うち製造業)	41.6	25.4	27.7	30.9	43.2	30.6	18.0	15.0	22.7	10.0	12.9	15.6	34.0	6.3
(うち非製造業)	43.3	32.5	23.7	28.7	45.7	28.1	22.0	21.5	32.8	17.4	17.2	15.1	30.3	12.8

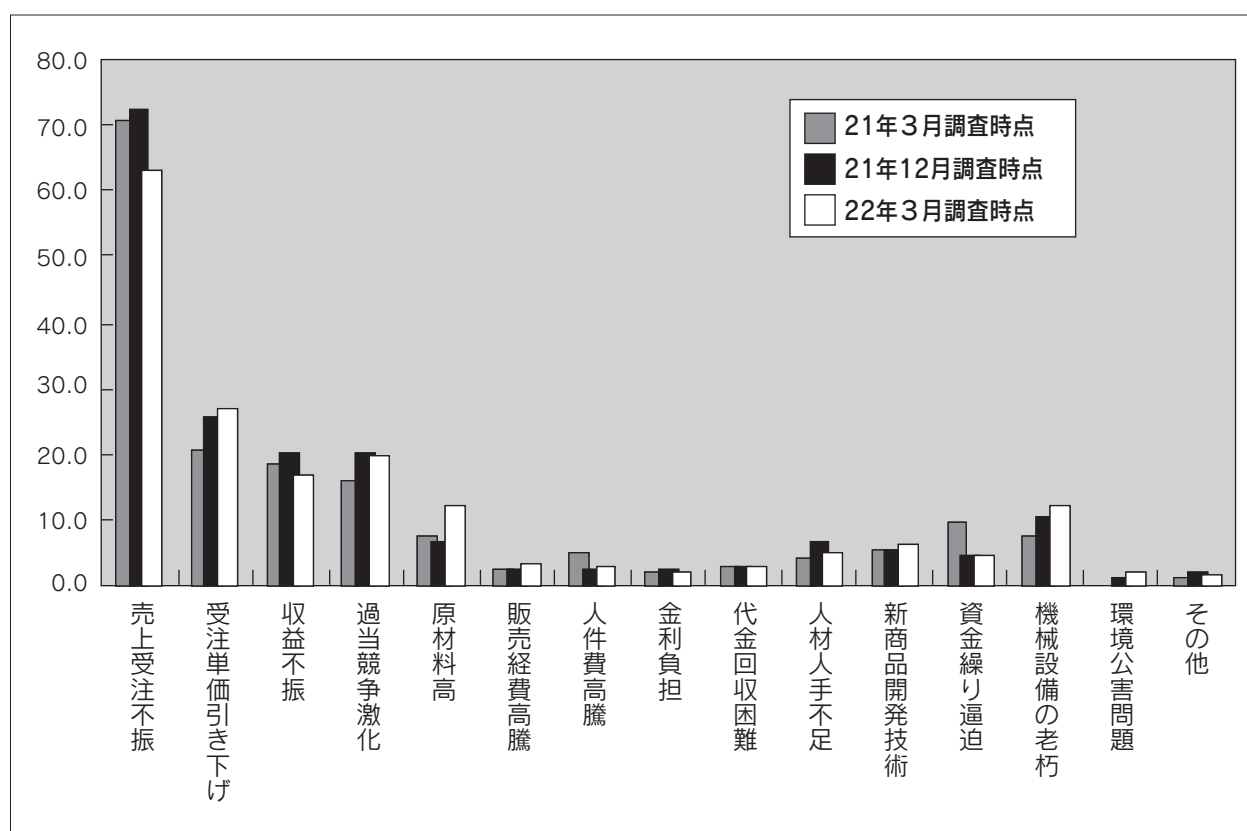


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について1～3月の採用は全産業で前期比横ばいであった。先行きでは、4～6月期には32%の企業が採用見込となっている。前年同期に比べ増加見込である。

IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	21年3月 (前年)	21年12月 (前回)	22年3月 (今回)	22年3月 (今回)		前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	70.5	72.1	62.7	(57.0)	(67.6)	-9.4
受注単価引き下げ	20.1	25.2	26.5	(32.5)	(21.4)	1.3
収益不振	18.1	19.7	16.4	(15.2)	(17.3)	-3.3
過当競争激化	15.6	19.7	19.4	(10.6)	(27.2)	-0.3
原材料高	7.1	6.2	12.0	(17.9)	(6.9)	5.8
販売経費高騰	2.3	2.0	3.1	(2.0)	(4.0)	1.1
人件費高騰	4.5	2.3	2.5	(1.3)	(3.5)	0.2
金利負担	1.7	2.0	1.9	(2.0)	(1.7)	-0.1
代金回収困難	2.5	2.6	2.5	(0.7)	(4.0)	-0.1
人材人手不足	3.7	6.2	4.6	(3.3)	(5.8)	-1.6
新商品開発技術	5.1	4.9	5.9	(11.3)	(1.2)	1.0
資金繰り逼迫	9.1	4.3	4.3	(2.6)	(5.8)	0.0
機械設備の老朽	7.1	10.2	12.0	(15.2)	(9.2)	1.8
環境公害問題	0.0	1.0	1.5	(0.7)	(2.3)	0.5
その他	0.8	1.6	1.2	(1.3)	(1.2)	-0.4



- (1) 今回調査の、全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振62.7%(前期▲9.4ポイント)、②受注単価引下げ26.5%(前期比+1.3ポイント)③過当競争激化19.4(前期比▲0.3ポイント)の順になっている。
- (2) 今回調査では、売上受注不振とする回答が前期比低下、収益不振も低下となった。しかし、原材料高を理由とする回答は12.0と5.8ポイント増加している。
- (3) 業種別でも、全ての企業が売上受注不振を問題点とし、高い順位のポイントとなっている。また、医薬品製造では新商品開発技術、プラスチックでは原材料高、自動車販売、百貨店スーパーでは過当競争激化が問題点として最も高いポイントとなっている。